感染管理認定看護師教育課程カリキュラム

認定看護師とは、「日本看護協会認定看護師認定審査に合格し、ある特定の分野において、熟練した看護技術と知識を有することが認められた者」をいいます。

本課程は日本看護協会認定の特定行為研修を組み込んでいない認定看護師教育課程（A課程教育機関）であり、当センターで本課程を修了すると、日本看護協会の感染管理認定看護師認定審査の受験資格を得られます。

【感染管理認定看護師教育課程のカリキュラムの特徴】

基準カリキュラムの内容に加え、実践スキルを高める演習として、サーベイランスのシミュレーション、模擬授業（指導）、相談のロールプレイを取り揃えています。また、認定看護管理者教育課程セカンドレベルの学生と一緒に学ぶ機会を設け、医療施設での組織横断的な活動を支援する内容を充実させています。

１　本課程の目的

（１）医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、専門的知識と高度な技術に基づいて医療関連感染の予防と管理を実践できる能力を育成する。

（２）医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、医療関連感染の予防と管理について指導できる能力を育成する。

（３）医療関連感染の予防と管理について、医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族からの相談に対応し、問題解決に向けた支援ができる能力を育成する。

２　感染管理認定看護師に期待される能力

（１）施設の状況を評価し、医療関連感染予防・管理システムを組織的かつ戦略的に構築するための計画を立案できる。

（２）医療関連感染予防・管理システムの運用、評価、改善を実践できる。

（３）施設の状況にあわせた医療関連感染サーベイランスを実践できる。

（４）医療関連感染の予防と管理に関する科学的根拠を評価し、医療を提供する場で実施されているケアの改善に活用できる。

（５）医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、医療関連感染の予防と管理について指導できる。

（６）医療関連感染の予防と管理について、医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族からの相談に対応し、問題解決に向けた支援ができる。

（７）医療を提供する場で働くあらゆる人々からの相談に対応し、職業感染防止を推進できる。

（８）医療関連感染の予防と管理の視点からファシリティ・マネジメント（施設管理）を推進できる。

（９）関連組織と協働して、パンデミックや災害等の緊急事態を想定した準備と対応ができる。

（10）医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、倫理的配慮を行いながら医療関連感染の予防と管理が実践できる。

（11）上記（１）～（10）を通して、感染管理分野の役割モデルを示す。

３　修了条件

以下を満たした場合に修了を認める。

1)　感染管理分野の認定看護師教育基準カリキュラム（Ａ課程教育機関）で定める全教科目（共通科目、専門基礎科目、専門科目、学内演習、臨地実習）において、各教科目の履修すべき時間数の5分の4以上を出席し、かつ各教科目の試験に合格すること。

2)　修了試験に合格すること。

４　年間スケジュール

４月	入学式
５月～12 月	集中講義期間（９～10 月臨地実習、12 月修了試験）
１月～２月	認定審査対策講座
３月	卒業式

5　教育内容　　（多少変更することがあります。）

分野	教科目 （必修・選択の別）	時間	内容	ねらい
共通科目	医療安全学： 医療倫理 （必修）	15	医療倫理の理論 医療倫理の事例検討	実践の場において、対象の人権擁護・知る権利・自律性（自己決定）を尊重した看護を提供するため、医療倫理についての理解を深め、実践活動にどのように反映できるか考察する。
	医療安全学： 医療安全管理 （必修）	15	医療管理の理論 医療管理の事例検討 医療安全の法的側面 医療安全の事例検討・実習	医療現場における安全管理をめぐる取り組みの経緯、医療事故発生のメカニズムについて理解する。また、実践の場において、看護者および他職種との連携を図り、医療事故を防止するための情報収集・分析・対策立案・評価・フィードバックを実践する能力を習得する。
	医療安全学： 看護管理 （必修）	15	ケアの質保証の理論 ケアの質保証の事例検討	わが国の保健医療制度の仕組みと動向を理解し、社会や地域住民のニーズに対応する医療サービスや看護のあり方を考察する。実践の場において質の高い看護サービスを効果的・効率的に提供するための戦略や、自身の役割機能の展開について検討する。
	臨床薬理学： 薬理作用 （必修）	15	主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	安全確実な薬剤投与・管理を行うため、薬物動態を踏まえた薬物の作用機序と主要薬物の薬理作用・副作用について理解する。
	チーム医療論 （特定行為実践） （必修）	15	チーム医療の理論と演習・実習 チーム医療の事例検討 多職種協働の課題 ※特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割を含む	質の高い医療・看護の効果的・効率的な提供に向けたチーム医療の推進について考察する。また、多職種協働の課題及び集団や組織の目標や課題を達成する上で必要なリーダーシップ活動について理解する。
	相談 （特定行為実践） （必修）	15	コンサルテーションの方法	対象及び組織内外の看護職者や他職種などに対して、コンサルテーションを行う際の知識や方法論について習得する。さらに、自らの役割と能力を超える看護が求められる場合には、自ら支援や指導を受けることの重要性について理解する。
	指導 （必修）	15	生涯教育と生涯学習 成人学習者への教育について 教材観（主題観）、対象者観、指導観について 学習指導案の作成・発表	組織内外の看護者に対して、実践を通して知識・技術を共有し、相手の能力を高めるための指導能力を習得する。

分野	教科目 （必修・選択の別）	時間	内容	ねらい
	看護管理 （選択）	6	看護管理者との連携・協働	看護管理者と認定看護師を目指す者の共講により、互いの立場や役割を理解し、リソースナースの活用がもたらす効果、組織への還元について考え、それぞれの卒業後の活動に活かせるようにする。
	グローバル 感染症 （選択）	12	グローバル感染症と感染管理	世界で流行する感染症について最新の知見を得て、地域や臨床での感染症の看護や管理に生かすための考察ができる。
	設定時間数　小計　　123　（必修 105　／　選択 18）			

分野	教科目 （必修・選択の別）	時間	内容	ねらい
専門基礎科目	感染管理学 （必修）	15	医療関連感染予防・管理概論 感染管理認定看護師の役割	(1) 医療関連感染の予防と管理の歴史と変遷について理解できる。 (2) 感染管理認定看護師の活動の実際について理解できる。 ①感染管理認定看護師の役割と機能（他職種との連携を含む）について理解できる。 ②感染管理認定看護師の役割と機能を発揮するための姿勢や手法について理解できる。 ③自施設及び地域における感染リスクのアセスメントが理解できる。
	疫学と統計学 （必修）	30	医療関連感染予防・管理の基礎となる疫学 医療関連感染予防・管理の基礎となる統計学 アウトブレイクの調査・介入	(1) 医療関連感染の予防と管理に必要な疫学の基礎知識を理解できる。 (2) 医療関連感染の予防と管理に必要な統計学の基礎知識を理解できる。 (3) アウトブレイク対応の具体的な手法を理解できる。
	微生物学 （必修）	15	微生物学 感染症の検査	(1) 病原微生物の分類と特徴が理解できる。 (2) 医療関連感染で問題となる微生物・感染症について理解できる。 (3) 薬剤耐性獲得のメカニズムが理解できる。 (4) 薬剤耐性菌の種類と特徴について理解できる。 (5) 感染症の検査の概要及び検体の取り扱い等について理解できる。
	感染症学概論 （必修）	15	免疫機構と感染の成立 感染状態の理解	(1) 免疫機構と感染の成立について理解できる。 (2) 易感染状態について理解できる。 (3) 抗微生物薬の種類と薬理作用について理解できる。

分野	教科目 （必修・選択の別）	時間	内容	ねらい
専門基礎科目	感染症学各論 （必修）	30	主な感染症の診断・治療・予防 薬剤耐性菌感染症の診断・治療 新興・再興感染症、輸入感染症 ワクチンで予防可能な感染症	(1) 主な感染症の診断・治療・予防について理解できる。 (2) 薬剤耐性菌感染症の診断・治療について理解できる。 (3) 新興・再興感染症、輸入感染症について理解できる。 (4) ワクチンで予防可能な感染症について理解できる。
	医療管理学 （必修）	15	医療提供システム 医療における質と効率 医療関連感染の予防と管理における危機管理	(1) 医療関連感染の予防と管理に関する政策や診療報酬制度について理解できる。 (2) 医療法、感染症法、学校保健安全法、予防接種法等の関連法規・制度の種類とその内容について理解できる。 (3) 医療における質の改善と評価について理解できる。 (4) 医療関連感染の予防と管理における危機管理について理解できる。
	設定時間数　小計	120	（必修 120）	

分野	教科目 （必修・選択の別）	時間	内容	ねらい
専門科目	医療関連感染サーベイランス概論（必修）	15	サーベイランス概論	(1) 医療関連感染サーベイランスの概念について理解できる。
	医療関連感染サーベイランス各論（必修）	30	医療関連感染サーベイランス各論	(1) 医療関連感染サーベイランス・プログラムの立案と実施について理解し、実践できる。 (2) サーベイランスデータの分析及び活用方法について理解し、実践できる。 (3) 代表的な医療関連感染サーベイランスの種類と具体的手法について理解し、実践できる。
	感染防止技術 （必修）	30	感染予防策とアドヒアランス向上のための取り組み 部門別感染予防 パンデミックや災害等の緊急事態を想定した準備と対応	(1) ガイドライン等で推奨されている感染予防策の内容及び科学的根拠について理解し、説明することができる。 (2) 科学的根拠に基づいて実施が推奨される感染予防策のアドヒアランスを向上するための取り組みについて理解し、実践できる。 (3) 特有の感染リスクを有する部門において、ガイドライン等で推奨されている感染予防策の内容及び科学的根拠について理解し、説明することができる。

分野	教科目 （必修・選択の別）	時間	内容	ねらい
	職業感染管理 （必修）	15	労働安全衛生 職業感染予防・管理	(1)職業感染管理の目的が理解できる。 (2)労働安全衛生教育の必要性が理解できる。 (3)職業感染の原因となる微生物の特徴が理解できる。 (4)職業感染の予防策と発生時の対応を理解し、実践できる。 (5)感染性微生物曝露者・接触者への対応や感染源調査の方法を理解し、実践できる。
	感染管理指導と相談 （必修）	15	医療関連感染の予防と管理に関する施設内外での指導 医療関連感染の予防と管理に関する施設内外での相談	(1)施設における医療関連感染の予防と管理に関する指導プログラムの立案・実施・評価について理解し、実践できる。 (2)職員が医療関連感染の予防と管理に関して行動を変容できるための具体的な方策について理解し、実践できる。 (3)医療関連感染の予防と管理に関する相談システムの構築方法について理解し、実践できる。 (4)医療関連感染の予防と管理に関する相談の実際について理解し、実践できる。
	洗浄･消毒･滅菌とファシリティ・マネジメント （必修）	15	洗浄･消毒･滅菌の原則と実際 ファシリティ・マネジメント（施設管理）の原則と実際	(1)洗浄・消毒・滅菌の原則について理解し、説明することができる。 (2)洗浄・消毒・滅菌が適切に行われるために、感染管理認定看護師が行う活動内容について理解し、実践できる。 (3)ファシリティ・マネジメント（施設管理）の原則と実際について理解し、実践できる。
	設定時間数　小計　　120　（必修 120）			

分野	教科目 （必修･選択の別）	時間	内容	ねらい
学内演習	学内演習 （必修）	136	医療関連感染予防・管理プログラムの立案（講義での学びを基に各施設における感染管理・予防上の課題を把握･考察し、各施設に応じたプログラムを立案） エビデンスに基づいた医療関連感染の予防と管理に必要な情報収集と分析 主体的な改善活動を行うために必要なコミュニケーションスキル（プレゼンテーション、文書作成など） 微生物検査	(1) 自施設における医療関連感染予防・管理システムについてアセスメントを行い、具体的課題と対策を明文化することができる。 (2) 明らかになった課題及び対策を反映したプログラムを立案することができる。 (3) エビデンスに基づいた医療関連感染予防・管理に必要な情報収集と分析ができる。 (4) 組織横断的かつ主体的な改善活動を行うためにプレゼンテーション、文書作成などの必要なコミュニケーションスキルを習得できる。 (5) 基本的な微生物学的検査の意義・実施方法・解釈の方法について理解し、実践できる。
実習	臨地実習 （必修）	180	所属施設での感染管理活動に活用できるよう、実習施設における医療関連感染予防・管理プログラムと感染管理担当看護師の役割を理解し、プログラムを実践する。	(1) 所属施設での感染管理活動に活用できるよう、実習施設における医療関連感染予防・管理プログラムと感染管理担当看護師の役割を理解し、一部実践できる。
	設定時間数 小計　316　（必修 316）			
設定時間数　合計　679　（必修 661　／　選択 18）				